

「訪問看護ってどんな仕事？」

当社の訪問看護ステーション所長経験者がお答えします！

回答者の紹介

岩鼻 陽子

資格：正看護師

訪問看護歴：13年



井内 良子

資格：正看護師

訪問看護歴：14年



岡野 忍

資格：正看護師

訪問看護歴：10年



「訪問看護を仕事にするきっかけとして、病院での看護と違うことをしたかったという方が多いようです。」

病院と訪問看護の大きな違いは何ですか？

岡野 病院は患者さんの

顔を見る間もなく治療に専念する場所になっています。そうしないと待っている患者さんに対応しきれない側面があります。私も自身も病院勤務の時、病室で患者さんと話をしていて、院内放送で呼び出されて、院外放送で呼び出されて、院外放送で呼び出されて（笑）。病院では患者さん自身のことを知りたくても、話すことは仕事と認められないんですよね。訪問看護では一人の利用者さんとゆっくり向き合えます。また、介護されているご家族にとつては、休養の時間にもなります。

岩鼻 入院中は規則を守り集団生活を送る、医師や看護師の指示に応じるなどの義務がありますが、在宅では指導しても強制はできませんよね。最終的には本人やご家族の意思が優先となる。訪問看護ではそのことを意識して関わらなければならぬと思います。

井内 訪問看護は利用者さんと同じ土俵に上がり、受け入れてもらわないと始まらないというのが一番の違いです。

「在宅看護において重要なことは何でしょうか？」

岩鼻 とにかく受け入れて頂かないと訪問ができません

ん。利用者さんやご家族の歴史や思いを認め、まずは自分が心を開き、相手を受け入れようとすることから始まるのではないのでしょうか。その気持ちは利用者さん本人にも伝わるはずですよ。

岡野 利用者さんのペースに合わせてすることも大事です。利用者さんの葛藤を理解し、受け止めて安心感を持ってもらうことを心がけています。

「どういった方が訪問看護を利用されていますか？」

岩鼻 基本的には0歳～高齢者で、病気や障がいにより生活や健康状態に支障があり、なおかつご本人またはご家族が支援を希望されている方です。

アットホームは何らかの精神疾患を持つ方がほとんどです。利用者さん自身は支援の必要性を感じておられなくても、精神訪問看護においては、「家族支援」という形での訪問が可能です。

「利用者さんは自宅にいて大丈夫な病状なのでしょうか？」

岩鼻 「自宅にいて大丈夫か？」というより、「どこでどのような治療を受け、どのように過ごしたいと思われるか」というご本人・ご家族の意思がまずは重要です。

岡野 その人自身が在宅を希望されているのであれば、それを尊重します。在宅を強く希望されている利用者さんほど、それぞれに生き様のようなものがあって、関わるのは本当に楽しいです。

「スタッフは基本的に一人で訪問しますが、現場で判断することはどんなことがありますか？また、訪問時に病状が急変した時はどうすれば良いですか？」

岡野 その場で自分だけで判断することはまずありません。何か異常を発見したらまずはステーションと医師に報告して指示を受けます。何かあってもすぐに先輩や医師に相談すれば良いので、かまえる必要はないですね。

井内 訪問スタッフにはそれぞれ連絡用携帯電話が渡されます。まずはステーションに電話をして、主治医と連絡を取ります。急変時の対応については予め利用者さんごとに決めておきます。急を要するかどうか分かるためには、日頃の様子から観察を欠かさないようにしておくことが大切です。

「アットホームは病院立のステーションではありませんが、主治医や病院との連携はどのようになっているのですか？」

井内 利用者さんごとに主治医がいて、緊急時の受け入れ病院も異なります。訪問看護利用開始時に、カンファレンスなどで関係者それぞれの役割の確認や対応方法等の大枠は決めています。

岩鼻 病院立であつてもそうでなくても、一人の利用者さんを多職種がそれぞれの立場でサポートしています。状態悪化の報告や相談は電話やFAX、直接訪問し、その他にも担当者会議、退院時カンファレンスなどで丁寧に関係を築いています。

「入社後はどういう研修がおこなわれますか？」

岡野 先輩と一緒に訪問先に同行し、その場でやり方を教えてもらうOJTを中心に研修します。OJTシートに沿って研修の進行具合を確認し、拒否のない利用者さんを訪問することから始めています。

岩鼻 社外研修にも積極的に参加してもらっています。ケースカンファレンスにも出席してもらい、利用者さんに対して理解をより深めてもらっています。

「精神科看護はどういう人が向いていますか？」

岡野 人に興味があつて、ある程度柔軟な考え方が出来る人が向いていると思います。利用者さんと根気強く付き合える、のんびりとした人が向いているのかなあと思っています。しかし、いくら熱心でも利用者さんに拒まれる場合もありますし、結局色んな人が必要だと思いますよ。
井内 始めるにあたり、特別な知識や技術は必要ないです。始めてから学べば良いのです。

岩鼻 私もいつも知識や技術が全てではないと後輩に伝えています。利用者さんやご家族の気持ちを大切にできる優しさだけは忘れてはいけません。一人で抱え込まずに、自分の思いを相談し、仲間と共有できる柔軟さも必要です。

「一人の利用者さんに対して、複数名のチーム体制で看護にあたる意義を教えてください」

井内 訪問看護は利用者さんと一对一の関係になるため、看護師は自分のしている看護の方法で良いのか必ず悩むときがあります。チームで関わることにより、悩み

を相談できます。

岩鼻 スタッフが固定されてしまうと、利用者さんにとっても色々な意見を聞く機会が減ってしまいますよね。その結果、問題が見えにくくなる、問題解決の選択肢が限られてくるなどの恐れがあります。

岡野 利用者さん本人も気づいていない自分らしさ、生きがいと一緒に見つけるためには、個性の違う様々なスタッフが必要です。いつどのタイミングで「自分らしさ」が出てくるか分かりませんもんね。

「スタッフのアンケートによると、アットホームの職場の魅力は、明るい雰囲気や相談しやすく、利用者さんとの関わりの中で、新しい挑戦も後押ししてくれるのとですが、職場の明るく相談しやすい土壌はどうやって作られていますか？」

岩鼻 そういう感想は嬉しいですね。「上下左右の分け隔てなく、皆で支える」という社風があるからでしょうか…？

岡野 利用者さんは毎回様子や反応が違うので、どんな小さなことでもお互い常に相談していかないとやっていけませんからね。

井内 訪問看護という仕事が好きなたちの集団だということも大きいですね。

「「精神科は看護の基本である」とアットホームでは教えられますが、どういうことでしょうか？」

井内 身体に病気がある人は心を病んでいることが多い、体だけを看ていては不十分ということですよ。

岡野 100人いれば100通りの個性を持った人がいます。人それぞれのその人らしさを見つけ、話を聞いて葛藤を理解し、まず受け止めることが看護の基本じゃないでしょうか。

岩鼻 病気になると、身体面や経済面・生活・職場(学校)など、多くの不安材料を抱えることになります。将来を悲観し、生きていく意欲を失うこともあります。本人が精神的に不安定な状態になると、支える家族も心も病んでしまいます。精神面のフォローは、知識や技術同様に見護者の重要な役割で、看護する上で基礎になる部



分だと思っています。

「訪問看護では、家族・キーパーソンとの関わりが不可欠ですが、多くのスタッフが難しいこととして挙げている点は、利用者さん（や家族）との関係づくりに関することでした。」

本人の意思を尊重するとはどういうことですか？

岩鼻 「どのような場面においても、本人がどうしたいと望まれているか」の自己決定を尊重することだと思えます。それは全て本人の思い通りにすることではなく、個人史や人生観を知り、本人の思いを理解した上で、本人にとって意味のある有益なものになるよう、一緒に考え支援することかと思っています。

岡野 本人の主体性は安心できる関係が成り立たないと引き出せません。例えば服薬でも、薬を飲んでいなくても飲んでいると嘘をつかれる関係よりも、正直に飲んでいない、と言える関係を作っておくことが大事ですね。

「本人が望みを表現できない状態の時は、どのようにアプローチするのですか？」

岡野 本当に何も表現できない人はいません。観察力、感性でその人がどう考えているか、利用者さんの表情を読み取る力を看護者側が身に付けていく必要があります。それが難しい場合は、担当者を変えてみたり、環境を変えてアプローチしてみます。

岩鼻 訪問時の様子・エピソードは重要な情報になります。本人の生活史や過去の発言から、本人がどのような人生観を持ち生きてこられたか、何を望まれていたかを知ります。また、家族の思いも十分に聴き、必要時主治医やケアマネージャーを交えての面談を設定するなど、本人の意思に沿った（近い）決定がなされるように協力していきます。



「ご家族や関係者との協力関係はどうやって構築していくのですか？」

岩鼻 在宅療養では家族の存在が大きく影響します。訪

問時には、本人や介護者だけでなく同居家族にも声をかけ、生活状況や健康状態に気を配ることが大切です。利用者・家族に関わらず、価値観が自分と大きく違っても苦しい時がありますが、そんな時は自分が考え方を変えると答えが見えて関わりが楽になることがあります。

岡野 ご家族に対しては、「家族」という一つの単位で見るとはなく、一人ひとり別の人間として付き合うようにすれば、自然とその家族の全体像が見えてきます。

「看護が目標とすることは何でしょうか？」

井内 利用者さんがその日その日を少しでも充実して過ごせるお手伝いをするのだと思っています。

岡野 そうですね。完治しない病気や障がいもあります。人は病気を治すただけに生きていくのではなく、やってみたくことがあったり、家族と楽しく過ごすために生きているはずなんです。ですので、どんな病気や障がいを持っていてもその人らしく過ごせるよう、その人らしさを見つけていくことが目標です。

一年前、二年前を振り返った時に、少し笑顔が増えたとか、できることが少し増えたとか、入院せずに過ごせたとか：そういう積み重ねが大切です。

岩鼻 どんな状況でも、「社会の一員」として暮らし続けることが大切です。ともすると、利用者さん側だけをどうにかしようと考えがちですが、社会の方が彼らが健康になれるようどうあれば良いのか、考える必要があります。

「アットホームでは、看護の仕事は、『健康』（※1）になるための「環境調整」につきると言っても過言ではないと考えていますが、「環境調整」とは何ですか？なぜ重要なのでしょう？」

井内 環境とは利用者さんの身体、生活、社会、経済、地域など、あらゆる要因によって構成されています。看護とはこれらを調整することにより、利用者さんの抱えている「生きづらさ」を少しでも改善することだと思えます。看護の守備範囲は非常に広く、私たちの仕事はいくらでもあります。

岡野 利用者さんが安心して快適に過ごすためには、その人のことを知って、家族との調整、地域との調整等をしていきます。私たちにとってもそうですが、その人が望む完璧な環境を作ることではできません。どこかで折り合いをつけていくことも環境調整になります。

「今まで色々伺ってきましたが、ずばりアットホームはどんなところですか？」

岡野 真面目で明るく、馬鹿っぽいときも・・・とにかく人間らしいですね。多様な面が隠さずに見えている職場が特徴かもしれません。

岩鼻 そうですね。また、どのスタッフも学習意欲が高く、研修会への参加にも積極的です。年齢は20代〜60代までと幅広く、既婚・未婚・子育て中のママさん(※2)・男性スタッフも各事業所に2〜3名います。それぞれの立場で愛情を持って看護に取り組んでいます。

井内 アットホームには園部事業所(※3)と、関連施設にるり溪やぎ農園があり、緩やかに自然と繋がっています。どんな仕事にもストレスがあり、疲れもあります。癒してくれる自然が背後にあるというだけで心が和んできます。

「最後に、これから訪問看護に携わるかもしれない方たちのために、アットホームの訪問看護職員として、どのような姿勢で仕事に取り組めば良いか教えてください。」

井内 難しく考えずに、利用者さんと一緒に楽しく過ごせる時間を持つ事だと思います。利用者さんの悩みを完全に取り除くんだ！なんて気負いすぎると、利用者さんに気を遣わせてしまつて、逆に不安にさせてしまうなんてことになりかねません。

岩鼻 利用者さんと思いを共有し、一緒に過ごせる時間を自分も楽しむこと、利用者さんの力を信じ、つかず離れず傍で見守る良き伴走者でいる姿勢が大事ですね。また、訪問看護はチームワークが要になります。自己判断や単独行動せず、同じ方向性で対応する必要があります。自分が感染の媒介にならないよう、また、自動車・バイクの運転もありますので、自己管理が必要になりますね。

岡野 些細なことでもいいので、新しいことに挑戦してみることで、利用者さんの心を少し揺らしてみるのが大切ではないかと最近は感じています。もちろん、信頼関係が築けていることが前提ですが。

生活は、平坦に見えていても、変化への対応や他

者との摩擦の連続です。自ら外部の刺激に触れて慣れていかないと、外には出ていきませんよね。誰でも実体験を通じて自信をつけていくんだと思います。気を付けないと、思い込みや固定のパターンにがんじがらめになっている...ということはスタッフにもよく起こることです。スタッフこそまず心が揺れる覚悟が必要かもしれませんね。

(2013年10月記事作成)

(※1 アットホームが目指す「健康」とは、『完全に、身体、精神、および社会的によい(安寧)状態であることを意味し、単に病気でないとか、虚弱ではないということではない』というWHOの定義を採用しています。)

(※2 本社には社内託児所を完備しており、従業員はどなたでも利用できます)

(※3 当社の園部事業所で、就労継続支援B型・就労移行支援事業として「しぜん塾やぎ農園」、共同生活介護・共同生活援助として「ゆきちゃんの家」を展開しています。)

